平成１７年１２月１日
生 活 安 全 企 画 課

自動車盗難等防止対策の推進状況について

警察庁をはじめ関係４省庁と民間１７団体から成る「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」では、「自動車盗難等防止行動計画」（平成１４年１月）を策定し、イモビライザの普及促進、関係機関間での盗難車両情報の共有、使用者に対する広報啓発等に取り組んでいる。１２月１日、第１３回官民合同プロジェクトチーム会議を開催し、今後の取組み課題等について検討する予定である。

１　自動車盗難情勢（資料１）

○　自動車盗難は、平成１１年以降急激に増加し、１５年には６万４，２２３件と過去最多となったが、１６年に５万８，７３７件（前年比－８．５％）と減少し、本年１０月末現在３万９，６８５件（前年同期比－１９．３％）と大幅に減少している。

○　キー付きの状態で被害に遭う割合は、減少しているが依然として高い水準（２８．３％）にある。

２　盗難多発車種、イモビライザの効果検証（資料２）

○　年間の盗難台数が一千台を超えた車種は、平成１６年中は１１車種で、平成１５年中に比べ４車種減少した。

○　３車種・型式についてのイモビライザ標準搭載前後の販売盗難比をみると、標準搭載車は、非搭載車に比べて販売盗難比が2.7～8.0倍低くなっている(ランドクルーザーの初期型イモビライザを除く)。

○　ランドクルーザーの現行型イモビライザは、初期型に比べて販売盗難比が3.8倍低くなっている。

３　今後の取組み課題

(1)　防盗性能評価制度の導入に向けた検討

イモビライザによる防盗性能に加え、車両への侵入防止、車両の追跡可能性を含めた車両全体の防盗性能評価制度の導入について検討を行っており、平成１８年１月からは、実車を使用しての調査研究を実施する。

(2)　盗難自動車の不正輸出防止対策

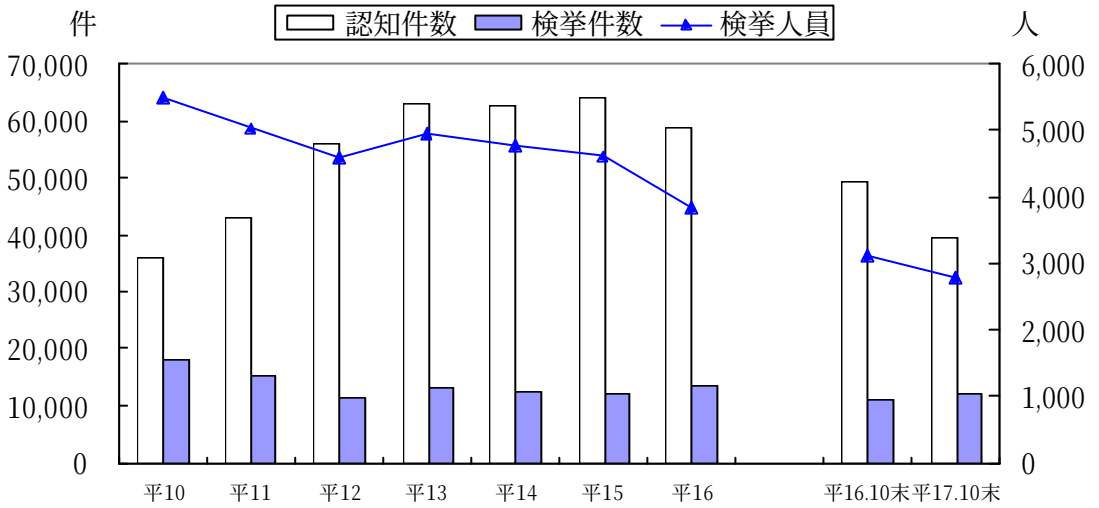
埠頭の管理を強化し、盗難車で無いことを確認した上で中古自動車の輸出がなされ、不正な積み込みについては警察等に即時通報がなされる仕組みを構築すべく、本年７月以降、伏木富山港で、港湾管理者、地方整備局、税関、警察、運輸支局、検数事業者等の官民関係者が協働して、港湾における盗難自動車の不正輸出防止対策を推進するための検討を行っている。

資料１

自　動　車　盗　難　情　勢

１　認知・検挙状況

自動車盗難の認知件数は、平成 11 年以降急激に増加し、平成 15 年には 6 万 4,223 件と過去最多を記録したが、平成 16 年には 5 万 8,737 件となり、前年に比べ 5,486 件（8.5 %）減少した。また、平成 17 年 10 月現在も 3 万 9,685 件と、前年同期に比べ 9,502 件（19.3 %）の減少となっている。



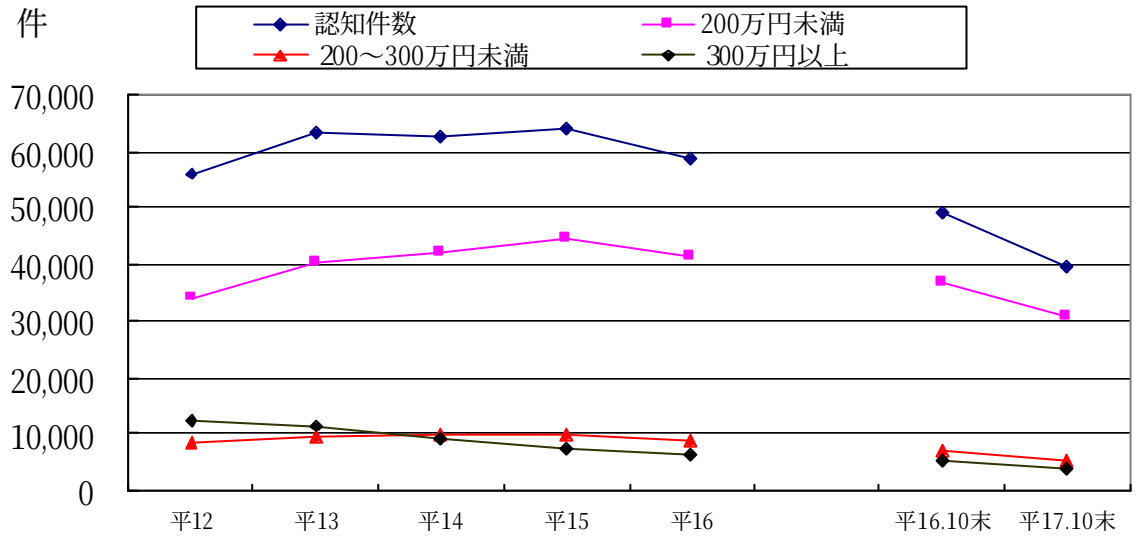
	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平16.10末	平17.10末
認知件数	35,884	43,092	56,205	63,275	62,673	64,223	58,737	49,187	39,685
増減数（前年比）	1,395	7,208	13,113	7,070	-602	1,550	-5,486	-5,147	-9,502
増減率（前年比）	4.0	20.1	30.4	12.6	-1.0	2.5	-8.5	-9.5	-19.3
検挙件数	18,210	15,241	11,415	13,390	12,791	11,931	13,765	10,955	11,887
検挙人員	5,495	5,028	4,590	4,933	4,775	4,599	3,823	3,103	2,764
検挙率	50.7	35.4	20.3	21.2	20.4	18.6	23.4	22.3	30.0

注：　平成１７年１０月末現在の統計数値は、平成１７年１１月４日現在の集計値であり、確定値ではない。（以下同じ。）

2　自動車盗の被害額

平成 17 年 10 月末現在の自動車盗の被害額が 300 万円以上は 3,973 件（10.0 %）、200 万円以上 300 万円未満は 5,126 件（12.9 %）、200 万円未満は 3 万,586 件（77.1 %）となっている。自動車盗の被害額が 300 万円以上は、前年同期に比べ 1,181 件（22.9 %）、200 万円以上 300 万円未満は、前年同期に比べ 1,957 件（27.6 %）といずれも 20 %を超える減少となっている。

自動車盗の被害額別認知状況

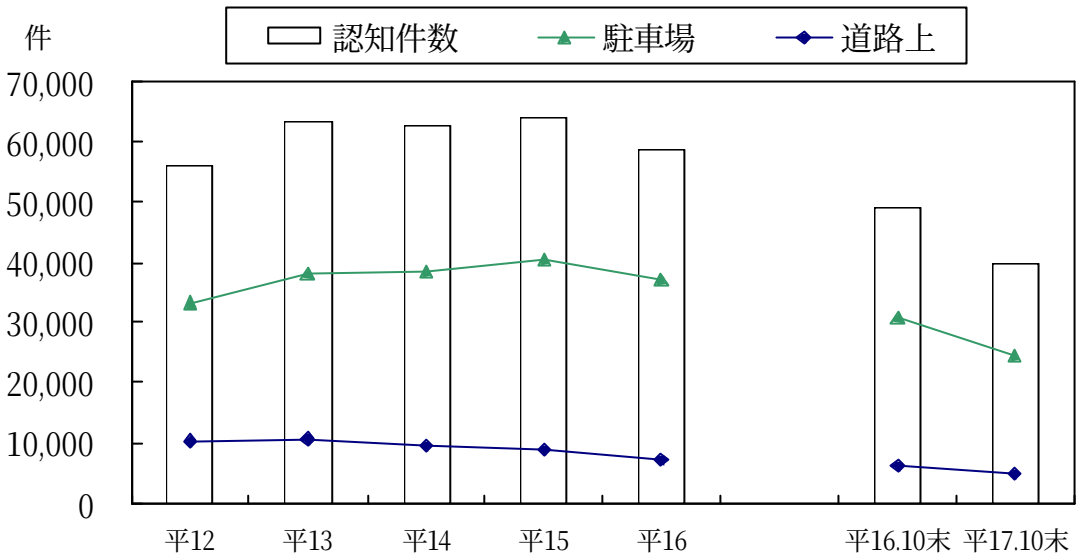


	平12	平13	平14	平15	平16	平16.10末	平17.10末
認知件数	56,205	63,275	62,673	64,223	58,787	49,187	39,685
200万円未満	35,447	42,213	44,048	47,114	44,057	36,950	30,586
（割合%）	63.1	66.7	70.3	73.4	74.9	75.1	77.1
200～300万円未満	8,311	9,563	9,693	9,736	8,535	7,083	5,126
（割合%）	14.8	15.1	15.5	15.2	14.5	14.4	12.9
300万円以上	12,447	11,499	8,932	7,373	6,195	5,154	3,973
（割合%）	22.1	18.2	14.3	11.5	10.5	10.5	10.0

3　発生場所

平成 17 年 10 月末現在の駐車場での発生は 2 万 4,748 件（62.4 %）と、前年同期に比べ 6,202 件（20.0 %）の大幅な減少となっている。

また、道路上での発生も 4,705 件（11.9 %）と、前年同期に比べ 1,452 件（23.6 %）の大幅な減少となっている。

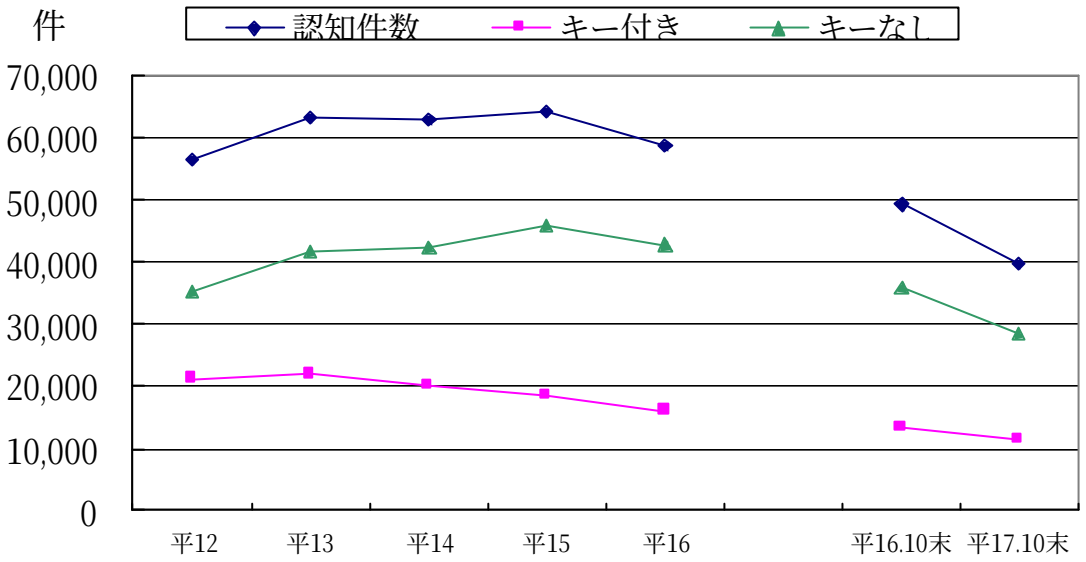


	平12	平13	平14	平15	平16	平16.10末	平17.10末
認知件数	56,205	63,275	62,673	64,223	58,737	49,187	39,685
一般住宅	4,549	5,016	5,130	5,574	5,756	4,802	3,974
（割合）	8.1	7.9	8.2	8.7	9.8	9.8	10.0
道路上	10,350	10,720	9,617	9,110	7,203	6,157	4,705
（割合）	18.4	16.9	15.3	14.2	12.3	12.5	11.9
駐車場	33,101	37,953	38,380	40,499	37,083	30,950	24,748
（割合）	58.9	60.0	61.2	63.1	63.1	62.9	62.4
その他	8,205	8,586	9,564	9,040	8,695	7,278	6,258

4　被害時の「キーの有無」の状況

平成 17 年 10 月末現在の「キーなし」の状態での被害は 2 万 8,437 件（71.7 %）、「キー付き」の状態での被害は 1 万 1,248 件（28.3 %）となっている。

「キー付き」の状態での被害は前年同期に比べ 2,228 件（16.5 %）の減少となっており、「キー付き」の状態での被害の占める比率が減少傾向になっている。



		平12	平13	平14	平15	平16	平16.10末	平17.10末
認知件数		56,205	63,275	62,673	64,223	58,737	49,187	39,685
	キーなし	35,010	41,532	42,469	45,655	42,738	35,711	28,437
	キー付き	21,195	21,743	20,204	18,568	15,999	13,476	11,248
	キー付きの比率	37.7	34.4	32.2	28.9	27.2	27.4	28.3

注：「キー付き」とは、エンジンキー（イグニッションキー）がメーンスイッチ（イグニッションスイッチ）に差し込まれていたか、運転席又はその周辺に放置されていたものをいう。

資料２

平成16年中の自動車盗難の分析について

１　車種別の盗難率

平成16年中における自動車盗難データを関連資料から抽出し、盗難台数が一千台を超えた車種を盗難率順にまとめたものが表１である。また、平成15年中の盗難台数が一千台を超えていたものの、平成16年中の盗難台数が一千台未満だった車種の盗難率は、表２のとおりである。

盗難率の傾向として、

○　昨年公表した車種については、一部を除き盗難率が減少している

○　アリスト、シーマ及びインテグラについては、盗難台数が減少しているものの、依然として盗難率が高い

等の特徴を有している。

表１　車種別の盗難率

車名（通称名）	盗難率（千台比）		増減	備考
	平成16年	平成15年		
ﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ	8.8	7.1	1.7	
ﾊﾘｱｰ	7.6	－	－	平成15年は一千台未満
RAV4	5.4	－	－	平成15年は一千台未満
ｾﾙｼｵ	4.5	7.0	△ 2.5	
ｸﾞﾛﾘｱ(ｸﾞﾛﾘｱｼｰﾏを含む。)	3.5	－	－	平成15年はｸﾞﾛﾘｱ及びｾﾄﾞﾘｯｸの合計
ｽｶｲﾗｲﾝ	2.9	3.6	△ 0.7	
ﾒﾙｾﾃﾞｽﾍﾞﾝﾂ	2.1	2.3	△ 0.2	
ﾊｲｴｰｽ(ﾚｼﾞｱｽを含む。)	1.9	2.2	△ 0.3	
ｸﾗｳﾝ	1.7	2.3	△ 0.6	
ｴﾙﾌ	1.3	2.8	△ 1.5	
ｺﾛﾅﾏｰｸ2	1.2	－	－	平成15年はﾏｰｸ2､ﾁｪｲｻｰ及びｸﾚｽﾀの合計
全車種平均	0.7	－	－	平成15年は軽自動車を除いていた

表２　平成15年中の盗難台数が一千台以上だった車種の盗難率

車名（通称名）	盗難率（千台比）		増減	備考
	平成16年	平成15年		
ｱﾘｽﾄ	7.4	10.1	△ 2.8	
ｼｰﾏ	5.3	5.9	△ 0.6	
ｲﾝﾃｸﾞﾗ(ｸｲﾝﾄ､ｸｲﾝﾄ･ｲﾝﾃｸﾞﾗを含む。)	4.7	5.2	△ 0.6	
ｷｬﾝﾀ	1.1	3.3	△ 2.2	
ｼﾋﾞｯｸ	1.2	1.5	△ 0.4	
ｶﾛｰﾗ	0.3	－	－	平成15年はｶﾛｰﾗ及びｽﾌﾟﾘﾝﾀｰの合計

注１　盗難率は、盗難台数を(社)日本自動車工業会推計の保有台数（平成15年末）で割算し1000を乗じたものである。なお、全車種平均の盗難率については、全車種の盗難台数の合計（約５万２千台）を国土交通省統計「自動車保有台数の推移」平成16年12月末の保有台数（乗用車、トラック、バス等の統計、約7,500万台）で割算したものである。

注２　当該データは、未遂等を含まないため、犯罪統計における自動車盗認知件数と異なる。

２　イモビライザ標準搭載の効果

昨年、イモビライザの標準搭載化の効果の分析を行った型式と同一型式である、アリスト(JZS161)、ランドクルーザー(UZJ100W)及びセルシオ(UCF21)について、イモビライザ標準搭載化による効果を分析したものが表３である。

効果の傾向として、

○　イモビライザ標準搭載車は、非搭載車に比べて販売盗難比が2.7～8.0倍低くなっている（ランドクルーザーの初期型イモビライザを除く）。

○　ランドクルーザーの現行型イモビライザは、初期型に比べて販売盗難比が3.8倍低くなっている。

表３　特定型式におけるイモビライザ標準搭載化の効果

車種	型式	イモビ		標準搭載化時期	平成１６年			平成１５年		
					累積販売	盗難数	販売盗難比	累積販売	盗難数	販売盗難比
アリスト	JZS161	×		－	21,431	363	16.9	21,431	553	25.8
		○		平成12年７月～	8,195	17	2.1	7,325	22	3.0
ﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ	UZJ100W	×		－	19,596	602	30.7	19,596	618	31.5
		○	初期型	平成12年５月～	12,736	426	33.4	22,215	259	11.7
			現行型		14,145	126	8.9			
セルシオ	UCF21	×		－	55,449	493	8.9	55,449	811	14.6
		○		平成９年８月～	34,733	115	3.3	34,733	133	3.8

注１　販売盗難比とは、分析期間内の盗難台数を、販売開始～分析期間末までの累積販売台数で割算し1000を乗じたものであり、分母である累積販売台数は廃車等による減少を含まないため、実際に使用過程にあるかは不明なものである。

注２　特定型式における分析では「キーあり」、「キー無し」の区別をしていない。